

## 一第20編 一七つの丘の世界都市

それこそ語りつくされた世界都市ローマである。だからこそと言うべきか、行くたびに新たな発見がある。そしてその基本は七つの丘と、多様でユニメンタルな広場群である。近年の定宿は、ピアッツァ・デル・ポポロ<sup>\*1</sup>のテベレ川寄りにある古い小さなホテルに決めている。この広場に寄り添うように緑豊かな小高いボルゲーゼ公園<sup>\*2</sup>の丘があり、そこから



写真20-1 ボルゲーゼ公園の丘から見下ろすバチカン



写真20-2 ナヴォーナ広場の四大河の噴水（ベルニーニ作）

らバチカンやローマ市街のほぼ全容を見下ろすことができる（写真20-1）。かつて古代ローマは丘の上に戦略的に築かれた都市間の覇権を競う争いの場であった。「ローマの七丘<sup>\*3</sup>」とは、市街中心部からテベレ川東に位置す

\*1 Piazza del Popolo :  
ローマの入口に当たる  
広場

\*2 Parco di Borghese :  
80haに及ぶ広大なイ  
ギリス式庭園

\*3 Palatino:「ローマの七  
丘」の一つで最も歴史  
が古いとされる

る古代ローマ時代の七つの丘のことだが、都市ローマの基礎を形作った。前6世紀の初めまでにこれらの丘の集落が合体して、都市（ポリス）を形成したと言われている。テベレ川と七丘に守られた地域が古代ローマの中心地になり、パラティーノの丘の北に、ローマの政治・経済の中心となる広場フォロ・ロマーノ<sup>\*4</sup>が築かれた。そして、前4世紀初めには七丘を囲むようにセルウィウス城壁が巡らされたのであった。

ポポロ広場から中心市街地に向かう途中には、それこそ無数の名所旧跡があるが、必ず訪れるのはイタリア建築協会のあるナヴォーナ広場<sup>\*6</sup>（写真20-2）<sup>\*7</sup> 一帯、そして現存する世界最古の建築パントンテオン（写真20-3）<sup>\*8</sup> 等である。都市住宅群に囲まれた小さなロトンドア広場を前に、古典様式の列柱が迎えてくれる。そこをくぐってドーム空間に足を入れれば、そこは圧倒的な合理的建築空間のめぐるめく世界。天空に抜ける丸窓から射す丸い光は時とともに移動し、自転する地球の悠久の動きを可視化してくれる。



写真20-4 パンテオン玄関ポルティコ



写真20-3 パンテオン天井見上げ

\*4 Foro Romano

\*6 Piazza Navona:紀元  
前一世紀に作られた競  
技場が原型

\*7 Pantheon: 現存する  
のは128年頃ハドリ  
アヌス帝が再建した